

品詞について

このプリントでは品詞について学習します。

(1) 品詞とは

- ・品詞…語をその形態や機能から分類したもの

(2) 覚えるべき品詞

覚えてほしい品詞は、名詞、形容詞、副詞の三つです。特に形容詞と副詞の違いに注意!

〔名詞〕…人や事物の名前や概念を表す語（本トレーニングでは代名詞も名詞に含めます）

例) Tom, a flower, she, her, the importance

〔形容詞〕…（簡単な定義）日本語に訳して「～い」、「～な」で言ひ切りになるもの（90%）※

（正式な定義）名詞や代名詞を修飾（詳しく説明）する語、状態・性質を表す語

例) a tall man, a small park, a big cake, a beautiful flower

〔副詞〕…名詞以外（動詞、形容詞、副詞、文全体）を修飾する語

例) very good, so small, honestly, He speaks slowly.

「ケイメイ（形容詞は名詞を修飾）」、「副詞は名詞以外を修飾」と覚えませう！

- ・例外：上級者のみ参照

まれに副詞が名詞を修飾する場合、また名詞（句）が副詞として働く場合もありますが、あくまでも例外です。

副詞が名詞を修飾してゐる例

Most of the students (today) have never used a public telephone. （今日の学生の多くは、公衆電話を一度も使つた事

today は副詞だが

がない。）

名詞 students を修飾

名詞が副詞として働いてゐる例

I will attend the meeting <this afternoon>. （私は今日の午後その会議に出席します）

this afternoon は名詞

だが副詞として機能

【重要】本トレーニングで使ふ品詞の記号

名詞→ < >

形容詞→ []

副詞→ ()

※日本語訳において「い」、「～な」で言ひ切りにならない形容詞

→angry, sick, happy 等々。

He is angry. Tom is sick. She is happy.等、SVC の簡単な例文を考へてみた場合、angry, sick, happy はそれぞれ主語の状態について説明してゐます。

- ・品詞の判別→△ 「この単語は副詞で、この単語は形容詞で…」のやうに一つ一つ覚えてゆく
- 総合的判断（文の意味、位置、接尾辞等）→特にどういふ風に機能してゐるかを考へる

単語帳ではしばしば形容詞の章、副詞の章といふ品詞ごとの分類がされてゐますが、実際には一つの単語が複数の品詞として働く場合が多くあります。それ故、「その単語がどういふ働きをしてゐるか」を考へることが大切です。次のページで、頭の動かし方を覚えませう。

- ・副詞と形容詞両方の働きをする単語の例。

Most <students> enjoyed the school festival. →most は名詞 students を修飾してゐるから形容詞

This is the most [expensive] bag. →most は形容詞 expensive を修飾してゐるから副詞

- ・名詞と動詞両方の働きをする単語の例

Give me some water, please. →この場合の water は「水」で名詞

He waters the plants every day. →「彼は毎日植物に水をやる」。この場合の water は「水をやる」で動詞

He works at Google. →この場合の Google は名詞。

Google it! →いはゆる「ググレ！」の意。この場合の Google は動詞。

ある単語が動詞の位置にあれば、動詞としての働きをします。

→その単語が「どういふ働きをしてゐるか」といふ発想が基本。

・接尾辞の例

-ion → 名詞 (状態、動作の結果の意) ex) action, decision

-able, -ible, -ble → 形容詞 (能力の意) ex) capable, reliable

形容詞+ly → 副詞 ex) slowly, efficiently

名詞+ly → 形容詞 ex) lovely, friendly

→接尾辞もある程度参考にはなります。

→実践演習 Part A へ

(3) 句と節

次に句と節といふ概念を覚えませう。幾つかの単語を大きなかたまりとして考へる方法です。

句…2語以上で名詞、形容詞、副詞等の働きをする語のかたまり

例) It was <a [beautiful] flower>. →“a beautiful flower”について、細かく考へれば a は冠詞、beautiful は形容詞等色々な品詞が含まれてゐるが、ひとつのかたまりとして「綺麗な花」と考へれば名詞として捉へられる。“a beautiful flower”といふかたまりを名詞句と呼びます。

He is [(very) kind]. →“very kind”について、細かく考へれば very は副詞だが、ひとつのかたまりとして「とても優しい」と考へれば形容詞として捉へられる。“very kind”といふかたまりを形容詞句と呼びます。

節…SV を含み、名詞、形容詞、副詞の働きをする語のかたまり (本トレーニングでは接続詞の章まで、当分出てきません)

例) I think <that <he> is [kind]>. →“that he is kind”について、細かく考へれば kind は形容詞等色々な品詞が含まれてゐるが、「彼は優しいといふこと」と大きく考へれば名詞として捉へられる。“that he is kind”といふかたまりを名詞節と呼びます。

He is <the man> [who visited us yesterday]. →「彼は昨日私たちを訪れた男です。」の意。
S V C M (形容詞節) “who visited us yesterday”について、細かく考へれば us は名詞、yesterday は副詞等色々な品詞が含まれてゐるが、“who visited us yesterday”で名詞 man を修飾してゐるため形容詞として捉へられる。“who visited us yesterday”といふかたまりを形容詞節と呼びます。

(4) 構造分析のコツ

ここからは文に SVOCM と品詞の記号を振る構造分析を行ってゆきます。その流れを掴みませう。

〈大きな流れ〉

①まづは文を漠然と頭から読んで意味を捉へて良い(→本来構造分析は、「あまり意味がはつきりしないなあ」と感じる時に使ふ技)。

↓

②次に SVOCM を考へる(品詞は後回し)。大きなかたまりで捉へること。

↓

③最後に品詞。品詞も 大→小(節→句→単語)へと考へる。

〈ヒント〉

- ・ SVOC に迷つたら、V の意味を考へよう(日本語で考へて「～を」が付くかな?)
- ・ 動詞の後に前置詞+名詞が来てゐたら、M の場合が多い(例へば He went to school yesterday. の to school)

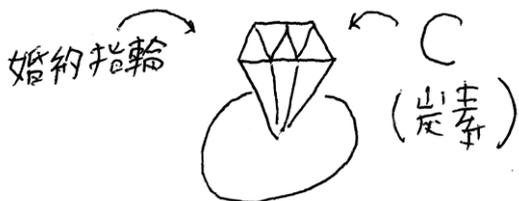
「こんな文なら構造分析をやらずとも、意味は分かる」と思ふかも知れませんが、トレーニングとして分析しませう。簡単な文で繰り返して反復練習することで、難しい文も解釈できるやうになつてきます。

→実践演習 Part B へ

(5) SVOCM と品詞の関係

構造分析をしてゐるうちに、何となく SVOCM と品詞との結びつきに法則がある気がしてきませんか?ここで一度整理してみませう。

まづ、大事なことです、SVOCM と品詞は、同じものに対する別な見方といふことです。同じものに対する別な見方とは、どういふことか、ダイヤの指輪を例に説明します。下の図を見て下さい。



ダイヤの指輪は、日常における常識といふ視点からすれば、婚約指輪と解釈できるかも知れませんが、一方化学の視点からは、炭素(元素記号で C)といふことになります。どちらの見方も正しいですし、相互の見方は独立して存在します。

SVOCM と品詞も同じです。学生さんの中には、SVOCM と品詞の区別がついてゐない方が多くありますが、今までの演習で分かつた通り、本来この SVOCM と品詞は別々に考へることが出来るものなのです。

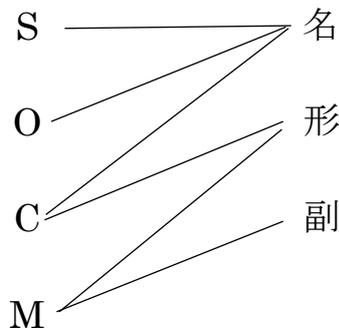
一方、SVOCM と品詞の間に全く関連性が無いかといふと、さういふ訳ではありません。ダイヤの指輪を例に

とれば、指輪は炭素で出来てゐるからこそ、婚約指輪になり得ます。その意味で、炭素といふ見方と、婚約指輪といふ見方の間には、関連性があります。SVOCM と品詞も同じです。SVOCM と品詞の間には、対応関係があります。ここでクイズです。下の図で SOCM と名詞、形容詞、副詞の間を線で結んでみませう（実践演習 B も参考にしつつ、「S になれる品詞は何か」、「O になれる品詞は何か」といふやうに）。



答へは下の通りです。

答へ



この図は、今後トレーニングで何度も登場することになるので、絶対に覚えて下さい。

主語と目的語になれる品詞は名詞だけです（※1）。

補語については名詞が来る場合（例：I am Tom. の Tom）と、形容詞が来る場合（例：She is beautiful. の beautiful）があります。

修飾語になれる品詞は形容詞と副詞です（※3）。

このやうに、SVOCM と品詞は同じものに対する別な見方ですが、お互ひに対応してゐるのです。

※1 上級レベルになると必ずしも名詞だけが主語になるとは限りませんが、入試レベルを超えるため、ここでは名詞とします。

※2 this morning や last week のやうに、名詞（句）が副詞として働く場合もありますが、例外的です。

それでは、上の図を踏まへた上で、実践演習を続けませう。

英語はスポーツに似てゐて、反復練習が大切です。スポーツの練習と同じく、何度も繰り返して、滑らかに構造分析が出来るやうにしませう。

→実践演習 Part C～E へ